



生涯学習活動がつくる 「地域とのつながり」という防災

毎月、参加者の希望をとりいれて、さまざまなことを学ぶ、
住吉小学校生涯学習ルームの『地域で楽しく』。
9月の講習は「災害医療について」(講師:松田宏樹医師)でした。

終了後、推進員のみなさんに
お話をうかがいました。



普段のつながりが「防災」

柴谷さん:私は以前は何かあれば避難所へ行くと考えていたので、それなりの準備をしていましたが、今はそれよりご近所につながりを普段から作っておいて、ご近所の助け合いが大切ではないかと思っています。ご近所付き合いも薄れている時代ですので、難しい面もありますけれど。個人的には大雨が降ったりしたら必ず声をかけてくださるところが、ご近所で何軒かるんです。昨日も土砂降りで外へ出たら何にも見えないくらいの時も迎えに来てくださって、私を抱えるようにして家へ連れて行ってくださって。やっぱり、いざとなったらご近所だと思うんですね。いろんな会議でも避難所へ行くよりも、まず近所で助け合いで強く打ち出しているところですが、システムとしてとか制度としてとかいうのは、なかなかいかないので、もっと広めていくて、昔の時代じゃないけれど、何かの時はご近所の助け合いを、となればいいな。

高齢者は応援してくださる見守りの制度もあります。でも、実際には普段のつながり。これが生涯学習だと私は感じてるんです。住吉区のフェスティバルでも「つながれ!ひろがれ!地域の輪」というもの(キャッチフレーズ)を何十年か前に提案して、それがずっと続いているんです。そこが基本かなっていう風に思っています。

木村さん:私も自分の家の近所の人は知っているけれども、やっぱりこの生涯学習っていう場で他の地域の方ともつながっていけるっていうのが、大きな財産かなって思っています。

西川さん:私もこの活動を通じていろいろ方と接触できて長年お付き合いでき、本当に家族みたいな感じです。

山口さん:そうですね。“1ヶ月に1回しか会わない人たち”っていうところから、連絡先を交換して、この夏だったら暑中見舞いをくれたり、LINEをくれたり、こちらも返したりで、夏休みの間は講習がなかったので会

わないんですけど、私はどちらかといえば、安否確認という感じもありながら、みんな元気なんで良かったっていう。ただここで1回講習するっていうだけではなくて、生涯学習を通じて輪が広がって、つながっていつのかなっていうのを感じます。

気持ちを「見える化」したSNS

柴谷さん:今日は防災の研修でしたけど、普通はものづくりからスタートですね、生涯学習って平成12年に介護保険制度ができたんですね。その時に受講生の方から「新聞やニュースでもやってるけどよく分からん。そんなんはできないよね」という意見が出たんです。それで区役所に相談したら区役所の方が「行って説明します」ということになって、それが『地域で楽しく』のスタートだったんです。それをきっかけにして、こういう勉強会を9月にしようと、毎年テーマはみなさんの意向を聞いて決めています。『地域で楽しく』

は毎回いろんなことをするというが受講生のみなさん、すごく楽しいみたいで。ここ何年か、コロナになる前ぐらいからの受講生がほとんど変わったんです。年配になって体調を崩したり、親御さんの介護しないといけないとか、いろんな事情があって。4月に回覧板をまわして募集して新しい方がどっと増えた。今、『地域で楽しく』に参加されている方は22名です。住吉小学校区が中心ですが、人づてに聞いてこられたり、お友達っていうことで来てくださったりして、住吉区以外、西成区からも何人かこられてますし、校区外からも来られてます。ここ2、3年メンバーさんが若くなったということもありますので、スマホという時代で、山口さんのおっしゃったように「体調大丈夫ですか」というのよっしうLINEください。そういうつながりで、より気持ちが通じ合うっていうのかな。LINEを使っていなかった10年前やたら考えられないことやなって思ってます。リンパマッサージの教室は受講生全員のグループLINE作ってくださってるから、今日この人は休みはんねんなどか、いろんな情報がそれを通じてわかるので、より気持ちが前へ向きますよね。知らないより知るっていうことが大事ですね。

松田医師はDMAT(災害派遣医療チーム)で活躍する救命医療のエキスパート。



山口さん:電話はしなくなつたけれどLINEになってなんか近くなった感じがします。お互いそなのかな。何かあった時、『地域で楽しく』のみなさん、大丈夫かなって思う。
柴谷さん:時代に応じて変えていかないといけないんやけれども、やはり昔の良さっていうか、やっぱり子どもも大人も高齢者もいつしょになって地域で何かできる、だから“生涯学習”っていう表現よりも、“地域教育”って私はよく表現するんです。地域の教育が活発になっていけば、地域が活発になっていき、地域が華やかになっていくつながりは無理に作れないんですよ。無理すると、もう絶対壊れるんです。自然につながりができるいくものなんです。だからそういうのを今いろいろと私、将来的に構想していることがあります。それまで元気でおれるかわかりませんけれど、頭の中では描いてます。

地域を超えてつながる、さらに広がる

柴谷さん:子どもたちの朝の見守りは東粉浜地域の方でも、住吉連合の中に町会がある場合は立ってくださってます。鍋島さん、朝の見守りで子どもさんに手を振ってたでしょ、いいことやなって。

講習後はにぎやかに情報交換。
次の申込みも忘れずに!



山口さん:そういうのが、つながりですね。立ってなかつたら、「あれ、あのおばちゃん、どうしたかな」と思つのがいいなって。

柴谷さん:私が今、一番うれしく思つるのは、スーパーに買い物に行つたら、若い人たち、今のPTAの人か、もうちょっと前の人が、分からんんですけど声かけてくれて、私が重たうに荷物を持ってたら「大丈夫ですか」とか「家まで持つていきますよ」と運んでくださつたり。申し訳ないなと思ってるんですけど、なんかそういう部分にしてもやっぱりどこかで何かしてるとつながっていく。今、ひとりで生活しますけど、たくさんの方に助けていただいて、こういうボランティアをさせていただいて、いろんなことを教えてもらつきました。いい先輩に恵まれました。本当に怖かったです、昔は。でも、今は本当にありがたいなと思って感謝してます。私が言われてきたことを、今、若い人たちに伝えられることは伝えてますし、「これはもう今の時代に合わない」と思うことは私の中で処理してます。この後輩たちがみんないい人たちで、本当にすごいんですよ、うちのメンバー。それぞれの力を出してくださつて。いい人に恵まれてるんです。それでこの歳になるまで、できたんです。

2023

